

SKIP活動について

建設省四国地方建設局企画部企画課 正会員 佐藤 克英
 正会員 ○美濃部 雄人
 木本 護
 吉岡 修一

1. 背景及び目的

豊かで住みよい四国を創るためには、河川、道路、公園、下水道等の社会資本整備の促進が不可欠であるが、近年の建設事業を取り巻く環境には厳しいものがあり、建設事業に対する国民のイメージや職業意識の変化等を背景に若年技術者、技能労働者の確保は難しくなっている。その上、四国においては特に労働者の高齢化が進んでいる等多くの課題を抱えている。

そこで、四国地方建設局では、これらの課題に対応すべく学・官・民等各界の有識者で構成する「新しい四国を創る建設懇談会」（座長：定井喜明・徳島大学名誉教授）を平成元年9月に設置した。懇談会では、①建設事業について広く理解を得る方策について ②建設分野における人材確保について③四国における具体化方策について をテーマとして取り上げ討議を重ね、平成3年4月に最終提言を行った。平成3年10月その提言に基づき、四国の発展と建設事業の役割、建設事業の担い手や建設事業の仕事の実態などについて幅広く一般住民に情報提供するとともに、建設現場等からの直接的な情報発信、建設現場の近代化などのイメージづくりを推進するため、SKIP（Shikoku Kensetsu Image-up Program：スキップ）推進協議会を四国の建設事業に関わる関係者が一体となって組織した。

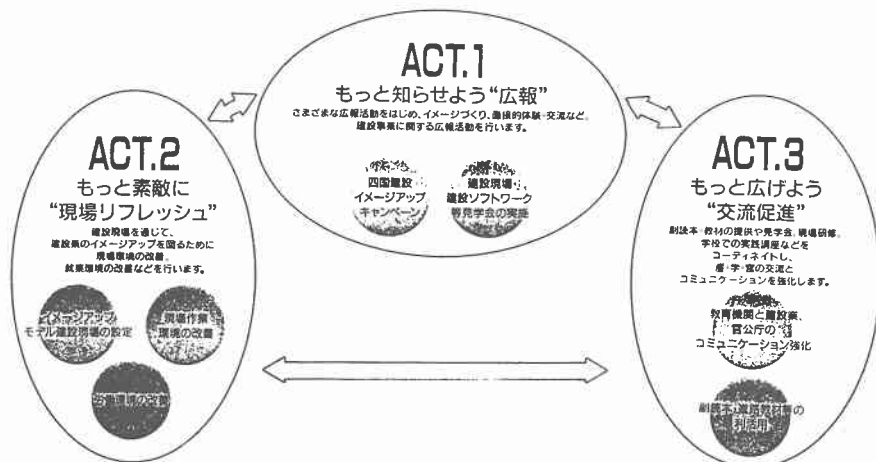
2. 協議会の活動

SKIP推進協議会は、四国の建設事業に係わる関係者が各々実施する建設事業のイメージアップ活動の連携をとり、それらが有効に機能するように、定期的に情報・意見交換を行うとともに協議会主催の活動について検討することとしている。

具体的には「新しい四国を創る建設懇談会」において提言された課題のうち、短・中期的課題（当面5箇年程度）として下表の活動を本協議会の取り組むべき課題に位置付け、学・官・民が一体となって、積極的に展開するものとする。なお、協議会において新たに提案される方策については、その都度、協議会において検討して実施するものとしている。

3. SKIPのアウトラインと活動計画

SKIPは、ACT1, 2, 3のアクションにより構成されてる。



4. 活動内容

（1）SKIPのCI推進

キャッチフレーズ、ロゴマーク、キャラクターを決定し、パンフレットへの掲載や建設現場での掲示などで、SKIPの考え方、方針等を広く一般にPRを行う。

未来と出会うフィールドへ。



四国建設イメージアッププログラム



（2）SKIPグランプリの開催

① SKIPグランプリとは

建設現場の改善や様々な広報活動、さらに周辺環境との調和や美しさ・デザインなどに工夫がなされた創造性豊かな社会資本整備をするなど、建設現場のイメージアップを図る努力が、各地で実施されています。SKIPグランプリは、四国各地で展開されているこうした取り組みを広く伝え、アピールし、建設事業の必要性や意義を理解していただくために開催されるコンテストである。

平成4年度から毎年開催され、「いきいき現場大賞」の部、「きらめき創造大賞」の部の2部門について表彰を行っている。

- ・「いきいき現場大賞」：現場環境の改善、就業環境の改善、地域とのふれあい、広報活動などの、すぐれた取り組みを表彰するもの。
- ・「きらめき創造大賞」：地域に調和し、いきいきとした空間を形成し、人々に愛され、地域の未来に貢献する社会資本を表彰するもの。

	応募数	
	いきいき現場大賞の部	きらめき創造大賞の部
SKIPグランプリ' 92	59	60
SKIPグランプリ' 93	54	67
SKIPグランプリ' 94	67	51

② SKIPグランプリ' 94の応募概要

・いきいき現場大賞の応募物件の内容

「いきいき現場大賞」については、各現場でそれぞれ取り組まれている建設現場の環境改善、就業環境の改善、見学会等の広報・PR活動、地域イベントへの積極的な参加による地元周辺住民の方々とのコミュニケーションの強化等、様々な取り組みが応募された。

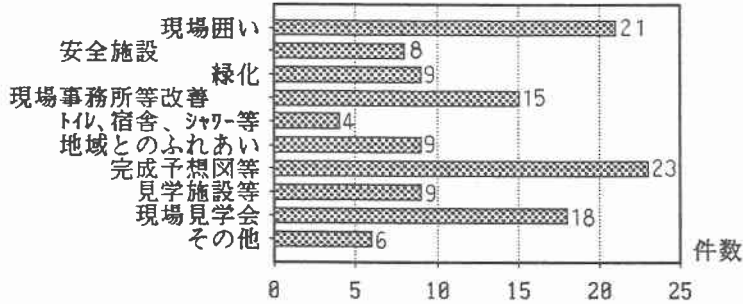
図-1はそれらの取り組みの主な項目である。

実施内容としては、完成予想図等の看板や現場の囲いフェンスの設置が多く実施されている。これらは利用方法として現場見学会開催時はもちろん、普段の作業時にも地元の方々に建設事業への理解を求めるのに役立つ。

就業環境の改善という点においては、現場事務所の環境改善にも配慮がなされてきており、清潔なトイレやシャワールーム、リフレッシュルームなどが設置された現場が増えてきた。

また、地域とのふれあいとして、感謝フェスティバルの開催や各種の地域イベントへの積極的な参加が行われ、コミュニケーションの強化が図られている。

現場見学会も次第に定着してきており、見学施設の充実も図られ、説明板とセットにして有効な利用がなされている。



いきいき現場大賞（複数計上）

図-1

・きらめき創造大賞の応募物件の内容

「きらめき創造大賞」については、地域に調和し、いきいきとした空間を形成し、人々に愛される社会資本、地域の未来に貢献する社会資本ということで応募がなされた。応募された物件は施設別に分けると図-2のとおりである。

数としては、河川、公園の施設が多くなっている。

河川では、水辺空間での潤い、水にふれるという点によく配慮がなされ、自然志向、水とのふれあいへの努力が見られた。

道路では、道路附属施設の整備に力が入れられ、横断歩道橋へのエレベーター設置やポケットパーク、専用道路の整備が行われた。

公園整備では、最近の余暇時間の増加、レクリエーションニーズの増加に対応して、各地で特色ある整備がなされている。

橋については、デザインに地元住民の方の意見を取り込んだものや、材質においてその地域の特色をフルに生かしたのものが考えられている。

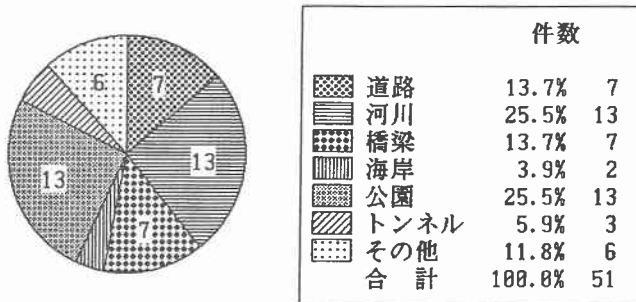
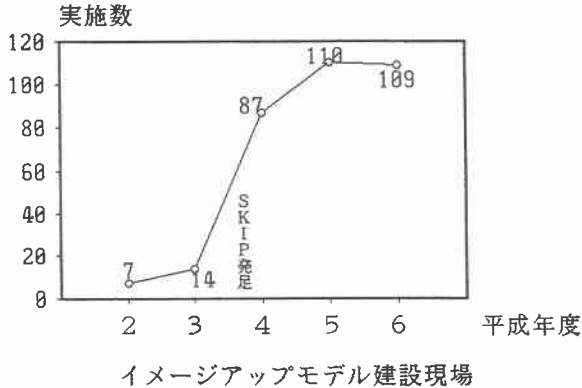


図-2

以上のような中から、優秀物件について表彰を行っており、表彰式の間を通じて一般の方へのPR及び関係機関の志気の向上が図られている。

(3) イメージアップモデル建設現場及び週休2日制モデル建設現場の設定

建設事業に対し、地域住民の理解を深め、建設事業従事者の人材確保に資するため、建設現場において広報活動、現場環境の改善、就業環境の改善等を計画的に実施するものとして、イメージアップモデル建設現場及び週休2日制モデル建設現場の設定を積極的に行っている。



平成	週休2日制 モデル工事
3	6
4	18
5	15
6	14

(4) 四国建設イメージアップキャンペーンの取り組みについて

四国建設イメージアップキャンペーンとして、SKIPのパフレット、グッズ等を作成し、関係機関へ配布するとともに、各関係機関の広報誌等の活用、マスコミへの情報提供を計画的に行い、SKIPを広く一般にPRしている。

・「建設現場観光ガイドブック」の発刊

建設作業に理解を深めていただくには、多くの人に現場を見ていただくことが大切であることから、誰でもが気軽に見学できる建設現場を紹介するものとして、「建設現場観光ガイドブック」の発刊を行い、一般への情報提供を行う。

このガイドブックは、写真と地図、及び工事の主な概要が掲載され、四国内の見学可能な建設現場が一覧でき、平成5、6年度と発刊し好評を得ており（年間60件程度の問合せ）、今後も継続して発刊する予定である。

(5) 学・官・民のコミュニケーションの強化

・SKIPビデオライブラリーの作成

四国地方建設局四国技術事務所で保管するビデオについて、ビデオライブラリーを作成し、四国内の大学、高専、高校等に配布・活用促進を図ることにより、建設事業の役割や重要性をより一層理解していただくこととした。

当初の保管本数は163本であったが、平成7年3月現在、421本に増補された。貸し出しの状況としては、次表のとおりとなっている。

	学校関係	官庁関係	建設業関係者	計
依頼件数	11	53	33	97
貸出延本数	94	185	296	575

・SKIPゼミナールの開催について

平成4年度は高松高専において、高専OBの方の中から学・官・民のそれぞれの分野の講師を招き、経験談等の講話やディスカッションを行い、また、平成5年度は高松市

内の中学校の進路指導等担当の先生方を対象に、現場見学会・フリーディスカッションを行い、建設事業各分野に正しい知識を得て、理解を深めて頂いた。

・副読本の活用

小学生用の教材開発として、「ドラえもんの土木のひみつ」、「ドラえもんの土木とくらし」（いずれも土木学会監修）を活用することとし、四国内の全小学校にクラス単位で使用できるように配布する。（4箇年計画）

この小冊子は、建設事業のおもしろさや、国民生活の豊かさを支える建設技術が、知識として得られるようわかりやすく表現されており、建設事業に関する知識・情報を普及し、小学生の皆さんに様々な職業に対する認識を深めてもらうのに最適であるとの判断から活用することとした。

（6）SKIPふれあいイベントの開催

土木の日（11月18日）にあわせて開催された「ふれあい土木展」、くらしと土木の週間（11月18日～24日）の行事の一環として開催された「くらしと土木のパネル展」への協賛を行った。

ふれあい土木展（場所 建設省四国技術事務所、平成4、5年度開催）

四国技術事務所を公開し、一般の方（地元小学・中学・高校、高専の生徒は招待）及び建設事業関係者に、新技術の紹介、実験体験、パネル展、実物展示、ビデオ教室等を紹介することによって、建設事業のイメージアップを図るもの。

くらしと土木のパネル展（場所 高松市役所玄関ホール、平成6年度開催）

土木事業に関する最新情報・くらしと土木の関わりなどをパネルで展示紹介し、建設行政及び土木技術に関する知見を深めていただくことにより、公共事業及び建設産業に対する理解とご支援を頂くことを目的としたもの。

5. SKIP活動の検証

（1）成果について

- ・SKIPグランプリへの応募：毎年100件を越す応募があり、グランプリ開催が契機となって、各現場での取り組みが活発になっているようである。（4.（2）参照）
- ・イメージアップモデル建設現場：協議会発足後、各機関で積極的な取り組みがなされ、定着してきた。（4.（3）参照）
- ・イメージアップキャンペーン：各機関がそれぞれ工夫を凝らした取り組みを行っており、次第にSKIP活動の意識が浸透してきている。（4.（4）参照）
- ・ビデオライブラリー：貸し出し依頼数・増補数ともに、順調に伸びており、各機関の関心の高さが伺われる。（4.（5）参照）
- ・ふれあいイベント：「ふれあい土木展」では約2,000名、「くらしと土木のパネル展」では約3,000名の参加者から概ね好評を得ており、一般の方々の関心の高さが感じられた。（4.（6）参照）

（2）問題点について

- ・活動のマンネリ化：現場見学会、広報誌への掲載等が画一的となっている。
- ・一般の方々への浸透の度合い：一般の方々はどう変わったかが、把握できていない。
- ・底辺の広がり：協議会メンバーの意識はあるが、それ以外の機関はどうか。
- ・各機関、各業者間の意識の差：各機関の活動に差があり、それが広がっているのでは。

6. 今後の課題等

SKIP推進協議会の設置から、既に3年半が経過しており、建設事業イメージアップの取り組みも、定着したかに見える。また、この間、社会情勢も大きく変化し、建設事業に対する、一般・学生・建設事業従事者等の意識や捉え方の現状についても、変化があるものと

思われる。

そこで、これらの状況を踏まえ、SKIP推進協議会発足前に行った、建設事業に対するアンケート調査を、平成6年度末に再度行い、この間の経年変化を捉えることにより、今後のSKIP活動の参考としていくこととしている。

「きつい、汚い、危険」など”3K”と言われる建設事業のイメージを変えるには、こつこつとその良さ、意義をアピールしていくしかないと思われる。イメージとは違う、本当に素晴らしい世界なんだと、誰にでも理解していただけるように、今後も努力して行きたい。